

B.2 モニタリング実績

(1) 活動量 (燃料消費量、生成熱量、生産量等)

モニタリング項目			モニタリング方法			モニタリング実績		備考
記号	定義	単位	分類 ※1	概要	頻度	実績値	計測対象期間 (年月日～年月日)	
F _{PJ, fuel, 2016_2017}	プロジェクト実施後のボイラーにおける燃料使用量	t	A	燃料供給会社 (日本瓦斯 (株)) からの請求書で消費量 (t) を把握する。	月	771.28	2016年12月1日～2018年3月31日	
F _{PJ, fuel, 2018_2020}						1,260.60	2018年4月1日～2020年7月31日	

※1 プロジェクト計画書に記載した分類 (分類A・B・Cのいずれか) とすること。

(2) 係数 (単位発熱量、排出係数、エネルギー消費効率、物性値等)

モニタリング項目			モニタリング方法			モニタリング実績		備考
記号	定義	単位	分類 ※1	概要	頻度	実績値	計測対象期間 (又は計測時期)	
HV _{PJ, fuel, 2016_2017}	プロジェクト実施後のボイラーで使用する燃料 (LNG) の単位発熱量	GJ/t	III	デフォルト値を用い、低位発熱量に換算して使用する。	モニタリング時	49.65	2016年12月1日～2018年3月31日	低位発熱量基準
HV _{PJ, fuel, 2018_2020}						49.83	2018年4月1日～2020年7月31日	
CEF _{PJ, fuel, 2016_2017}	プロジェクト実施後のボイラーで使用する燃料 (LNG) の単位発熱量当たりのCO2排出係数	t-CO2/GJ	III	デフォルト値を用い、低位発熱量対応値に換算して使用する。	モニタリング時	0.0563	2016年12月1日～2018年3月31日	低位発熱量基準
CEF _{PJ, fuel, 2018_2020}						0.0560	2018年4月1日～2020年7月31日	
ε _{PJ}	プロジェクト実施後のボイラーのエネルギー消費効率	%	II	ボイラー要目表〔仕様表〕に記載の値 (低位) を使用する。(株)IHI汎用ボイラー提供。	プロジェクト開始時	89.2	2016年3月18日	低位発熱量基準
ε _{BL}	ベースラインのボイラーのエネルギー消費効率	%	II	カタログに記載の値 (低位) を使用する。(株)日本サーモエナー、川重冷熱工業 (株)、(株)ヒラカワ提供。	プロジェクト開始時	88.0	2016年3月18日	低位発熱量基準
CEF _{BL, fuel}	ベースラインのボイラーで使用する燃料 (LPG) の単位発熱量当たりのCO2排出係数	t-CO2/GJ	III	デフォルト値を用い、低位発熱量対応値に換算して使用する。	モニタリング時	0.0648	2016年12月1日～2020年7月31日	低位発熱量基準

※1 プロジェクト計画書に記載した分類 (分類I・II・IIIのいずれか) とすること。

B.3 排出削減量の算定方法

B.3.1 排出削減量の評価

(1) 算定の対象とした排出活動に基づく排出削減量の算定

注) 主要排出活動及び、付随的な排出活動のうちプロジェクト計画書において「排出量を算定する」とした活動のモニタリング結果に基づき排出削減量を算定すること。

$$ER = EM_{BL} - EM_{PJ} \quad (\text{式1})$$

記号	定義	単位	算定値
<i>ER</i>	算定の対象とした排出活動に基づく排出削減量	tCO2	971.6
<i>EM_{BL}</i>	ベースライン排出量 ※1	tCO2	6,644.7
<i>EM_{PJ}</i>	プロジェクト実施後排出量 ※2	tCO2	5,673.1

※1 B.3.2のベースライン排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※2 B.3.4のプロジェクト実施後排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※3 B.3.4まで入力後、自動計算されます。

(2) 付随的な排出活動に基づく排出量の影響度による評価

注) プロジェクト計画書において「排出量を算定する。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する」と選択したプロジェクト実施後の付随的な排出活動の排出量の評価を行うこと。(1)で算定した排出削減量に対して計画書で定めた影響度を乗じて算定を行うこと。

排出活動	影響度 (%) ※1	排出量 (tCO2)
該当なし		

※1 プロジェクト計画書で評価した影響度を記載すること。

(3) 排出削減量の評価

注) (1)で算定した排出削減量から(2)で評価した排出量を差し引くことにより、排出削減量を算定すること。

記号	定義	単位	算定値
<i>ER</i>	排出削減量	tCO2	971.6
	(1)で算定した排出削減量	tCO2	971.6
	(2)で評価した排出量(※1)	tCO2	0.0

※1 (2)で評価した排出量の総和を記載すること。行を追加して記載した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

B.3.2 プロジェクト実施後排出量

(1) 主要排出活動

本プロジェクトでは、プロジェクト実施後の燃料使用量からプロジェクト実施後排出量を評価する。

$$EM_{PJ} = F_{PJ, fuel} \times HV_{PJ, fuel} \times CEF_{PJ, fuel} \quad (\text{式3})$$

記号	定義	単位	実績値
$EM_{PJ,M}$	プロジェクト実施後の主要排出量	tCO2	5,673.1
$EM_{PJ,M,2016_2017}$	2016、2017年度プロジェクト実施後の主要排出量	tCO2	2,156.4
$EM_{PJ,M,2018_2020}$	2018、2019、2020年度プロジェクト実施後の主要排出量	tCO2	3,516.7
$F_{PJ, fuel, 2016_2017}$	2016、2017年度プロジェクト実施後のボイラーにおける燃料使用量	t	771.28
$F_{PJ, fuel, 2018_2020}$	2018、2019、2020年度プロジェクト実施後のボイラーにおける燃料使用量	t	1,260.60
$HV_{PJ, fuel, 2016_2017}$	2016、2017年度プロジェクト実施後のボイラーで使用する燃料 [LNG] の単位発熱量 (低位)	GJ/ t	49.65
$HV_{PJ, fuel, 2018_2020}$	2018、2019、2020年度プロジェクト実施後のボイラーで使用する燃料 [LNG] の単位発熱量 (低位)	GJ/ t	49.83
$CEF_{PJ, fuel, 2016_2017}$	2016、2017年度プロジェクト実施後のボイラーで使用する燃料 [LNG] の単位発熱量当たりのCO2排出係数(低位対応値)	t-CO2/GJ	0.0563
$CEF_{PJ, fuel, 2018_2020}$	2018、2019、2020年度プロジェクト実施後のボイラーで使用する燃料 [LNG] の単位発熱量当たりのCO2排出係数(低位対応値)	t-CO2/GJ	0.0560

※1 主要排出量の算定の考え方について記載例を参考に記入すること。

(2) 付随的な排出活動

本事業で適用する方法論では、プロジェクト実施後の付随的な排出活動は規定されていないため、付随的な排出活動は評価しない。

B.3.3 ベースライン排出量の考え方

(1) ベースライン排出量の考え方

本プロジェクトにおけるベースライン排出量は、プロジェクト実施後の生成熱量を、プロジェクト実施後のボイラーからではなく、ベースラインとして想定されるボイラーから得る場合に想定される二酸化炭素排出量とする。

(2) ベースライン活動量の算定式

$$Q_{BL,heat} = Q_{PJ,heat} = F_{PJ,fuel} \times HV_{PJ,fuel} \times \frac{\varepsilon_{PJ}}{100} \quad (\text{式4})$$

記号	定義	単位	実績値
$Q_{BL,heat}$	ベースラインのボイラーによる生成熱量	GJ	90,191.5
$Q_{PJ,heat}$	プロジェクト実施後のボイラーによる生成熱量	GJ	90,191.5
$Q_{PJ,heat,2016_2017}$	2016、2017年度プロジェクト実施後のボイラーによる生成熱量	GJ	34,158.0
$Q_{PJ,heat,2018_2020}$	2018、2019、2020年度プロジェクト実施後のボイラーによる生成熱量	GJ	56,033.5
$F_{PJ,fuel,2016_2017}$	2016、2017年度プロジェクト実施後のボイラーにおける燃料 (LNG) 使用量	t	771.28
$F_{PJ,fuel,2018_2020}$	2018、2019、2020年度プロジェクト実施後のボイラーにおける燃料 (LNG) 使用量	t	1,260.60
$HV_{PJ,fuel,2016_2017}$	2016、2017年度プロジェクト実施後のボイラーで使用する燃料 [LNG] の単位発熱量 (低位)	GJ/ t	49.65
$HV_{PJ,fuel,2018_2020}$	2018、2019、2020年度プロジェクト実施後のボイラーで使用する燃料 [LNG] の単位発熱量 (低位)	GJ/ t	49.83
ε_{PJ}	プロジェクト実施後のボイラーのエネルギー消費効率 (低位)	%	89.2

B.3.4 ベースライン排出量

(1) 主要排出活動

$$EM_{BL} = Q_{BL,heat} \times \frac{100}{\varepsilon_{BL}} \times CEF_{BL,fuel} \quad (\text{式5})$$

記号	定義	単位	実績値
EM_{BL}	ベースライン排出量	tCO2	6,644.7
$Q_{BL,heat}$	ベースラインのボイラーによる生成熱量	GJ	90,191.5
ε_{BL}	ベースラインのボイラーのエネルギー消費効率	%	88.0
$CEF_{PJ,fuel}$	ベースラインのボイラーで使用する燃料の単位発熱量当たりの二酸化炭素排出係数	tCO2/GJ	0.0648

(2) 付随的な排出活動

本事業で適用する方法論では、ベースラインの付随的な排出活動は規定されていないため、付随的な排出活動は評価しない。

B.4 省エネルギー量の算定

燃料種別 (※1)	認証を申請する期間 (2016年12月1日～2020年7月31日)							
	エネルギー使用量			熱量換算 (GJ)※2		原油換算 (KL)※2		
	単位	ベースライン	プロジェクト実施後	ベースライン	プロジェクト実施後	ベースライン (①)	プロジェクト実施後 (②)	ベースライン－プロジェクト実施後 (①－②)
A重油	k l					0.0	0.0	0.0
LPG	t	2,213.7		112,453.5		2,901.3	0.0	2,901.3
天然ガス	千Nm ³					0.0	0.0	0.0
LNG	t		2,031.88		110,940.6	0.0	2,862.3	▲ 2,862.3
都市ガス	千Nm ³					0.0	0.0	0.0
購入電力	kWh					0.0	0.0	0.0
							合計	39.0

※1表に記載の燃料以外を用いる場合には、行を追加して記載すること。

※2熱量換算及び原油換算において用いる換算係数については、エネルギー使用の合理化に関する法律（省エネ法）施行規則第4条に規定する換算係数を使用すること。

省エネ法に基づく換算係数 (LPG) 50.8 GJ/t

省エネ法施行規則4条による熱量原油換算係数 0.0258 kL/GJ

省エネ法に基づく換算係数 (LNG) 54.6 GJ/t

B.5 再生可能エネルギー量の算定 (該当する項目のみ記入)

(1) 再生可能エネルギー由来の発電量

認証を申請する期間 (年 月 日 ~ 年 月 日)			
ベースライン	プロジェクト実施後		再生可能エネルギー由来の発電量 $\textcircled{3} \times (1 - \textcircled{2}/\textcircled{1})$
①排出量	②付随排出量	③発電量 (自家消費分のみ)	
[t-CO ₂]	[t-CO ₂]	[kWh]	[MWh]

(2) 再生可能エネルギー熱の利用量

認証を申請する期間 (年 月 日 ~ 年 月 日)			
ベースライン	プロジェクト実施後		再生可能エネルギー熱の利用量 $\textcircled{3} \times (1 - \textcircled{2}/\textcircled{1})$
①排出量	②付随排出量	③生成熱量	
[t-CO ₂]	[t-CO ₂]	[GJ]	[GJ]